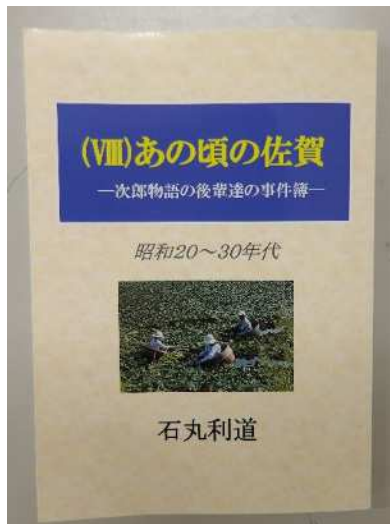


① 演題 あの中の佐賀（昭和20年代～30年代）～次郎物語の後輩達の事件簿～

② 講師 エッセイスト 石丸利道さん

③ 講演内容と講演風景



上峰町（旧上峰村）出身の石丸さんを講師に迎えて、子ども時代の遊びや学校生活、農村生活を綴ったエッセイ『あの中の佐賀』の内容を話していただきました。今は使わなくなった言葉や表現が飛び出し、その都度会場がざわめいていました。石丸さんの話を聴いたり本を読んだりしながら幼い日々をすごした生活を振り返ることが出来ました。著書は現在8作目まで出版されていて、神崎市立図書館で借りることが出来ます。左写真は、最新8作目の表紙です。別資料には第1番目著書の目次を掲載しています。ご参考どうぞ。

④ 受講後の感想（一部）

○佐賀の昔話、私の主人が育った話と一緒に。良く覚えておられて感心しました。佐賀は日本のふるさと皆さんの思い出、協調できる事柄であったように思える。今はごちそうがあふれる生活に思える。生活そのものが忘れられない思い出です。

○子どもの頃の町や村の様子や遊びが懐かしく、共感しました。世代が一緒に色々話され、懐かしく聞かせて頂きました。自然の遊びも男女で遊んだ記憶を思い出しました。場所が神埼と上峰は近くで良かったです。想像しながら聞いていました。七夕は公民館でした。飛行機大会に出るため作りました。同じ農家で良く分かりました。

○昔懐かしい話でした。今では聞かない（聞けない）単語のパレード。良く覚えておられますね。「思い出る故郷」でした。

○石丸先生の話に昔を思い出し、懐かしく拝聴しました。時には遠い子供時代や経て来た自分の人生を振り返るのも良いものですね。

○昔の表現（方言）を使って話されて分かりやすくて良かったです。懐かしかったです。